くまもと障害者労働センター通信

ウィズ ～ともに～

WITH

2013年度
第2号
2013.07.18

おれんじ村

発行：社会福祉法人 くまもと障害者労働センター　〒861-8039 熊本市東区長嶺南１-５-４０
TEL：０９６-３８２-０８６１　FAX：０９６-２８５-７７５５

ORANGE CAFE

お一人での食事に変化をつけませんか？おれんじカフェでは楽しい夕食をご提案します。
「健康的　おてごろな価格　にぎやかな食事」をテーマに毎週木曜日『宵カフェ』を開催しています。
メインメニューは毎週々変わりで、小鉢料理はバイキング方式です。ご飯・汁物は、おかわりもできますよ。
アットホームな雰囲気のカフェで、皆さんのお越しをお待ちしております。

『宵カフェ』始めました。ORANGE CAFEより。

毎週木曜日
18:00～20:00

一人暮らしや食事のタイミングがあわず、一人で食事を摂る方も多いと思います。ORANGE CAFEでは、バランスの取れた温かい夕食を提供することで、みなさんの健康増進と、人と人とがつながるきっかけ作りができたらいいなぁと思っています。まだ始めたばかりで、週に１回の開催ですが、まずはおいしくてヘルシーなメニューのご提供を心がけ、少しずつでも夜の営業を増やしていけるように頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

宵カフェの開催にあわせて、カフェの厨房を少し改装しました（左の写真の赤い部分）。ドリンクやデザートを準備するカウンターや棚、電動車いすも厨房に入れるようなシンクの配置など、カフェにかかわる誰でもが、すこしでも働きやすいようにしようというのが出発点でした。改装するにあたっては、カフェスタッフの松尾さんのお父さん（大工さん）や、製造スタッフの源川さんのつれあいさん（水道屋さん）、知り合いの電気屋さんに、材料代だけで作業して頂きました。また、配置を考えるうえで、カフェを設計して下さった隈元さんにも何度も足を運んで頂きました。みなさん私たちの活動を応援したいとのお気持ちでのことでした。紙面上ではありますがお礼申し上げます。感謝の気持ちは、誰でも働けて、地域に根付いたカフェテリアの運営をしていくことでお返ししていこうと思っています。

そんなみんなの気持ちのぎっしりつまった「宵カフェ」、少しでもみなさんのお役にたてたらうれしいです。たくさんの方のご来店お待ちしています！！

以下、カフェスタッフの声を。
市瀬です。「チューボウが広くなって、私はデザートをさっとだせるようになったし、しょっきるいが洗いやすくなりました。」　田尻です。「つかいやすい。さっともってきて、あらいができます。りょうりももってきてできます。アイスコーヒーもうごかしなくてできます。人にぶつからなくて、しやすいです。お茶もつぎやすいです。」　千賀崎で～す。「テーブルができて、さぎょうしやすくなりました。前よりひろくなって良かったです。」　宮守です。「作業場が広くなり、作りやすくなりました。棚もでき、見せるディスプレイになり、カフェらしくなりました。車いすの方も入れて、作業が出来るようになり「中を手伝いたい」と言っていた千賀崎さんも喜んでいると思います。　上村です。「きれいでよかったです。」

共同連全国研修会 in 宮城 報告

共同連全国研修会に参加して

野尻 健司

4月20・21日と共同連全国研修会 in 宮城に参加。被災地から見えたものは、まだまだ残る障害者への差別につきる。

●障害者施設が街の外れに

今回は、南三陸の被災地へ。

南三陸は、大津波により今まであったはずの街がなくなり、そこにはテレビで有名となった津波で壁がなくなり鉄筋の骨組みだけが残る防災センター（町の職員が最後まで住民に避難の呼びかけを行い、亡くなった場所）と数件の同様の骨組みだけとなった建物が残っているだけで、地域住民の人影はなく、うみねこの声と波の音が静かに響き渡り、異様な雰囲気を醸し出していた。

しかし、震災から2年が経ち、津波が届かなかった高台に地域住民の力で新しい街がつくられていた。そこで目の当たりにしたものは、昔と変わらない障害者への差別そのものだった。高台には、新たな家や店が建てられている。しかし、障害者施設は、新たな街の外れの山の中に建てられていた。新しい街でも、障害者は街から離れた場所に集められ、社会、そして地域が拒み続けているという現実があった。

●被災地の障害者施設の職員の話の中に感じた、配慮という名のあやしさ

南三陸の障害者支援施設の所長さんより事業所の震災当日の避難状況から現在までの復興に至るまでの話を伺った。震災時、そして、その後に至るまで、事業所にかかわる人たちのご苦労、自分の生活をも大変な中、事業所のため全力をささげられている姿を聞き、想像を絶する被害の大きさと、しかし、それにも負けない人々の力強さを感じた。

話の中で、どうしても気になることがあった。震災時、事業所のみなさんも、地域の学校に避難をした。その際、事業所専用に学校の一室が準備されていたとのことだった。他の障害をある人たちの話を聞いた時には、配慮がなく避難所にも入れなかったという話を聞いていたので、事業所が地域に根付き受け入れられていたので、地域の人たちが率先して配慮してくれたんだなぁと感じた。また、支援物資なども事業所に優先的に配っていたとの話もあり、日ごろからの地域のつながりの大切さを感じながらも、私の胸の中には違和感が残った。

その後、南三陸から仙台に帰るバスの車中、話を思い出しながら、共同連から準備されていた缶ビールを開け飲んでいる横で、被災地を目の当たりとして様々な思いに駆られたO氏は、一人一本用意されていた缶ビールを何故か3本飲み干し、「トイレ、やばい、漏れる」と言っている。また、移動のバスの中で司会を務めるM氏は、いつのまにか司会そっちのけで自分の好きなバスの話を延々と始めている。でもなんか、いつもの共同連、労働センターのような雰囲気に、やっぱり落ち着く。そして、いつもの雰囲気が、話の中で感じた違和感の原因に気付かせてくれた。障害のある人に配慮して教室を一室準備することが本当に障害のある人への配慮だろうか。障害のある人は、関係する人（職員）だけに任せて、「あとはお願いね。私たちはかかわらない」と言っているようなものじゃないか。健常者側からの配慮はただの押し付けで、障害のある人を排除するためのものではないか。問題となった広島全国菓子博も同様である。来場者・障害者の安全のためと、電動車いすの入場制限をしたり、事前連絡をして介助者がいないと入れないなど、健常者側からの押し付けが配慮と勘違いされている。私自身も当事者とのかかわりでどうなのか、当事者の声を聞いているのだろうか、深く考えさせられた。

私たちは、障害のあるなしにかかわらず共に働き、共に生きるという理念を掲げ、労働センターの取り組みを地域の住民に示してきた。しかし、まだまだ、地域に根付いた労働センターとは言い難い。今回の研修に参加し感じたこと、それは労働センターと地域とのつながりをどのようにつくっていくのか。働いて地域で生活するだけでなく、地域の中で互いに知り合う機会をつくるか。

具体的な提案までは考え付かない。しかし、労働センターの活動を見直してみると、現在の活動の中でも地域とのつながりをつくりだすことが可能ではないか。宵カフェや講演活動などの取り組みは、そのひとつである。より地域の抱える課題を解決することに重点を置き事業を展開していくことで、新たな人たちとの出会いをつくりだし互いの存在を知る機会へと繋がるだろう。地域の人とつながり、私たちのこと、地域の人のことを互いに知り合う、地道ではあるがそのことでしか障害者差別をなくすことはできないだろうと感じた。今後、被災地での研修で感じた障害者差別という問題に労働センターとしてどのようにしてかかわり、取り組んでいくのかを問い続けていきたい。

2013年共同連研修報告書

大久保 輝一

1日目。 飛行機に乗り仙台空港着、空港の津波がおしよせた跡は、表面的に復興していた。3年前共同連仙台大会に行った時と状況が変わっていた。昼過ぎにバスに乗り南三陸に行った。現地を見て復興は進んでいないこと。私の思いは、熊本で同じような災害がおこったらどうなるんだろうと不安に駆られた。現地の復興、障害者作業所、仮設住宅など・・・「まだ、現地は厳しい状態にある」例えば学校はどうか？→高台にやっと避難できたが、防波堤をつくると言っていた。だが津波がもし防波堤に押し寄せたら安全か？その東北の電気代や生活費の免除（東北の消費税の値上げ停止がいちばんである。）などは知恵をしぼればいくらでもできるはず。原発で働いている方には残酷な言い方ではあるが電気の発電方法は別に方法はいろいろだせるはすではないのかと・・・。九州でも地震が起こった時に原子力発電所は安全と言い切れるか？私も素人で考えて安全ではないと思う→地震が多い日本では緊急事態に対応できないのだ。私見として原発に代わる地熱発電など代わりのエネルギーにと政策転換すべき。

夕方、 日が暮れようとしていた。紺のジャージ姿の女子中学生が復興した新しいで公園で遊びか話をしていた。復興住宅の子どもに3分間でも良いから本音を聞きたかったが、私は言おうか言いまいかためらった。「地震や津波の事が怖かったですか？」と聞きたかったが、相手が混乱するだろうと勝手に思い込み、私は聴くことが出来なかったのだ。推測だが「あなたには分からないでしょ。」と、言われ、指摘されるのではと、私自身がためらってしまったのだ。実は私自身が混乱してしまって、いたのではないかと友人から指摘された。 私は、「障害者政策は、特に東北に先手を打つべきではないか」それを政府、特に復興庁に言いたい、そして不覚にも帰りのバスの中で涙が出た。それは地域（人）のつながりといいつつもこちら側が（当事者）がいつも結果的に差別を受けて、後回しになるという事。何かすっきりしないもやもや感、なぜ政府は行政は対応が遅いのか、憤りが大きくなかなか寝付けなかった。

2日目。 4月21日強い大雪が降り、寒く、黒いダウンを来て、野尻さんと早めに研修の場に向かう。仙台市民の方は被災者、特に障害者の避難や、個人情報を盾に動かない制度。どうしてだろう？混乱しているにも関わらず、連携が取れていない。これは熊本でも同じ地震や津波が起こったら同じことで批判を受けるだろう。様々な意見を聴く中で現地の人の切実な声。東北の復興ばかり強調するテレビなどに特に疑問を感じたのは、対立する意見を正確に報道してほしい→原発しかり教育など・・・。

そして今回現地をみて、 日々考える事は事実を知る事。私はやはり労働センターの日々の営業の販売に戻り、自分には何ができるのか？この事を考えると震災や原発は遠くの事ではなく、私は小さいことでもいい、募金にしても、知り合った人とメールをやりとりして「励ましあう事」が大切ではないかと思う。二つ目に考えたことは、情報が正確かどうか、特に対立する意見は（原発・テレビ等）いろいろな面から検証していく力が大切だ。「現場では意見が分かれる事がある」。三陸町の防災センターは残したほうがよいのではと現地の人（案内された方）に問うた、すると現実に津波で亡くなった人もいる、家族は残してほしくないと言われた。その時，私は頭では復興と言っている、役人さんと同じ発想になっていたのだ。なんと情けないことだろう・・・研修で学んだことは、現地の人の声を聞く事、ふりかえって私はどうか？と問い続ける事、学習を積み重ねることが大きな収穫ではなかったかと思う。きれい事に惑わされず、例えば現地はもがいているという事ではないか。

終わりに。今回共同連研修に労働センターから行かせていただいたことを感謝いたします。報告書を書く上で、文章が抽象的・観念的でわかりにくいと指摘された。本当にそのとおりだ。でも、悔しい「本当の自分」を正直につづれるようになりたい。

新人さん紹介

今年度４月より、２名の新人さんを労働センターにむかえました（プラス昨年度紹介されることなく、なじんでしまった源川さん約1名）。今回も３人の自己紹介をお届けします、どうぞ～。

宮守文美子さん
（みやもりふみこさん　女性・３１才）

今年の５月から、お世話になっています。宮守文美子です。給食作りと、カフェの業務を担当しています。給食作りは、毎週木・金の担当で２５人前後の食事は、作った事なくて、量が分からず、ためらいもありましたが、今は、少しなれて、時間内で作れるようになりました。今後も、みなさんに喜んでもらえる、おいしい給食を作ります。

カフェの方は、新しい取り組みを、みなさんで考えられていて、私も、みなさんと一緒に、和気あいあいと、お客さん喜ばれるカフェにしていきたいです。よろしくお願いします！！

金森央祐さん
（かなもりひろすけさん　男性・１８才）

IT 部金森です。4 月から、おれんじ村で働く事になりました、金森央祐です。ぼくは、小学校がおれんじ村の近所だったので、小さい頃からおれんじ村に遊びに来ていました。なので、今のカフェが、事務所だった頃も知っています。趣味は、パソコン、テニス、サックス、ピアノです。好きな食べ物は、焼肉です。得意な事は、テニスです。苦手な事は、計算です。

IT 部に所属しているので、まずは文章が正確に入力できるようになりたいです。これからよろしくお願いします。頑張ります！

源川友子さん
（げんかわともこさん　女性・ひみつ♪）

昨年９月より製造部でお世話になっております、源川です。

製造しているお菓子は、すべて厳選した材料を使用しています。一人でも多くの皆様に安心して召し上がって頂けるように、心を込めて丁寧に作りたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

託南６年生からのお礼の品①

実習生が来ましたよ。

６月に１週間、黒石原支援学校高等部２年生のHさんが実習に来られました。短い期間でしたが、労働センターのいろんな仕事を体験してもらいましたので、その感想をお届けします。

『私はおれんじ村で実習をしました。一日目は製造でお菓子作りをしました。シフォンケーキを作りました。計るときにこぼさずに入れるのが難しかったです。

二日目はサーターアンダギーを作ったり、クッキーの袋づめしたり、ラベルはりをしました。真っ直ぐはるのが難しかったです。

三日目はカフェで台ふきをしたり、ゆかふきをしたり、スプーンふきをしたり、フォークをふいたり、ナイフふきをしたり椅子をふきました。お客さんが多すぎて、ちょっと退屈でした。

四日目午前中は、販売でした。くまもと県庁におかしを販売にいきました。とっても緊張しました。暑かったです。午後は、IT 部で名刺作りをしました。難しかったけどきれいな名刺が出来て、嬉しかったです。

五日目は製造でかりんとうのきじのカットをしました。真直ぐきじをカットするのが難しかったです。

午後 IT 実習の感想を書きました。オレンジ村の人とたくさんお話出来て嬉しかったです。本当に五日間ありがとうございました。』

そして先日こんなうれしいお礼状が届きました。→『おれんじ村のみな様へ　先週は実習お世話になりました。私はおれんじ村で、一週間実習出来て、楽しかったです。トイレのかいじょお世話になりました。サータアンダギーとってもおいしかったです。県庁にはんばいに行った時あつかったけど、おかしがいっぱい売れてうれしかったです。

私はおれんじ村のみなさんが大好きです。デザートクラブあんないが来るのを、楽しみにしています。また遊びに行きます。』

Hさんの高校生活が充実したものになりますように。そして、うちのイベントでまた会えるのを楽しみにしていますね。

託南６年生からのお礼の品②

託麻南小学校６年生地域探検に来ました。

先日、６月と７月の２回、ご近所の託麻南小学校６年生のみんなが地域探検で、おれんじ村にやってきました。この時の様子をお伝えしますね。

『託南の６年生のみんな、来てくれてありがとう。私のつたない説明、聞いてくれてありがとう。どんなだったかというと、サーターアンダギーや焼かりんとうの種類を「シナモンってわかるかなぁ」とか「よもぎってわかるかなぁ」とか思いながらの説明でした。実はシフォンケーキの説明をまるまる忘れる失敗をしましたが、野尻さんにフォローしてもらいました。せっけんはアンダギーの廃油と苛性ソーダで作って、２個で 100 円で売っていることも話しました。

託南のみんなからは「サーターアンダギーは１日にどれだけ作りますか？」「いままでに楽しかったこと、つらかった事はなんですか？」「おれんじ村は、いつ誰が始めたのですか？」という質問がきました。「アンダギーは一日平均２０袋（１種類につき）作っている」と答えました。私のつらかった事は答えませんでした。だって小学生に聞かせられるような事ではないですから・・・。楽しかったのは B`z の事を答えました。歌詞が良く、作曲もスゴイし、ライブは楽しいし。おれんじ村の始まりは、障害者３名が１９８５年ひっそりと始めた事を吉村さんが答えていました。

私は、現実は厳しく、時給３００円とか労働センターの売り上げはどのくらいといった、お金に関する質問がなかったのが残念でしたが、こちらから言うべきだったかもしれないけど、中学２年くらいじゃないとお金の話は無理かなぁと思いました。

７月の訪問の際は、お礼、楽しかったですよ。特にラ～イジ～ングサ～ァンのおれんじ村アレンジのダンスはよかったですよ。あと、みんなが書いてくれた秋祭りのポスター、上手ですね。全部使いたいけど、さっきの現実うんぬんの説明通り、全部は無理ですね。

託南のみなさん、中学生になったら「ナ〇ワ金〇道」とか「カバ〇タレ !!」を読んで、この世の非情さやお金に関することを学んで下さいね。みんな楽しい時間をありがとう。それではまた。』

文：製造部
松村圭祐

託南６年生からのお礼の品③
おれんじマン１号２号

おれんじ ORANGE かふぇ CAFE 通信

ORANGE CAFE

無料ギャラリー展示の巻

みなさんの作品をカフェに展示しませんか？

おれんじカフェの壁にはピクチャーレールなるものを設置しています。ご存知の通り、絵画や写真、展示物を上からさげるためのものです。なので、少し大きめの物でも展示可能です。そして、スケジュールが空いていれば、ご利用は原則無料です。絵手紙、絵画、写真、ハンドクラフト、焼き物、切り絵などなど、みなさんの趣味の成果を展示して頂けると、カフェがとてもにぎやかになって、うれしいんです。　展示のスケジュールについては、先着順に決めさせて頂いているので、まずはお電話を！！みなさんのご利用首をなが～くしてお待ちしています！！

～お問い合わせ～

おれんじカフェ：電話 096-387-8161：11時～16時

松村紀幸さんの切り絵WORLD展

CHECK!!

倉田代表の講演感想コーナー

お二人とも、とてもうれしい感想です。
こんな気持ちを伝え続けていこうと思っています。

私は、不べんな人は、かわいそうだなと思っていました。でも体が不べんな事を私は、ちゃんとりかいをせずに「まぁかわいそうだな」と思ってたけど、その不べんな事をわかれる人になりたいです。

体がみんなとちがっても、みんないっしょだ！とまなびました。あと、もしみんなとちがってもはずかしがらずにこれが私なんだから・・・・とはじめてかんがえました。

あと足だけをつかって生活しているのをみて、すごいなと思いました。私は手がつかえるので足だけを使うとしって、ほんとうにすごいなと思いました。熊本県から大分県まで車できていてビックリしました。みじかい間だったけどとてもいい話でした。ありがとうございました。これからもこの話を忘れずにおぼえておきたいです。私たちの学校にきてくれてありがとうございました。　M・Y

ぼくは倉田さんを見て思ったことはありませんでした。倉田さんもふつうですからぼくらと同じで。

しょうがいを持った人はとくべつなんかじゃなくて、みんな平等です。逆にかわいそうとかを言う人は、かわいそうと思ったじてんで上から目線だし、それはおかしいと思っています。

だから倉田さんも自信を持って仕事にもがんばってください。　K・R

NEW!

ORANGE CAFE SUMMER GIFT SELECTION

～サマーギフト取扱い中です！！～

熊本県産小麦・産直たまご・よつばバター。
おれんじ村こだわりのお菓子です。手作りでていねいに作っています。
アーモンドたっぷり甘くてさくさく**フロランタン**
くるみやココアがたっぷりホロホロの**スノーボール**
ほろにがい**珈琲クッキー**
ゆう工房の**ドリップコーヒー**　のセットです。　製造部一同
大切な人やお世話になった方へいかがでしょうか。おくりものにどうぞ。

お礼とお願い

私たちの共働事業は、障害のある人もない人も一緒に働いて、厳選した材料を使用し、安全なお菓子を製造し、皆様のお手元へ届けることで成り立ちます。

この3か月で、延べ752か所の事業所やイベントで販売をさせて頂きました。紙面上ではありますが、厚く御礼申し上げます。いつもごひいきにして頂き、ありがとうございます。

先日のミーティングで、毎日、午前・午後それぞれ3チーム販売に出るように決めました。日々の販売活動に力を注ぎながら、ギフトやキャンペーン商品を作っていきますので、真新しいものを見かけた際は、「なんだろか？」と見て頂くと嬉しいです。どうぞ宜しくお願いします。

製造部＆販売部

編集後記

今回自分が入力をした原稿がWITHに使われてとても嬉しいです。

最近、家から電動で通勤の練習を始めました。この間は電動で初めて通勤しました。電動で通勤をした事がなかったので緊張しました。でも道を覚えたら一人で通勤ができるようになりたいです。これからも頑張ります。　金森

カフェ(宵カフェ&ギャラリー)と金森くんの新しい試みが始まり、とても楽しみです。　藤堂